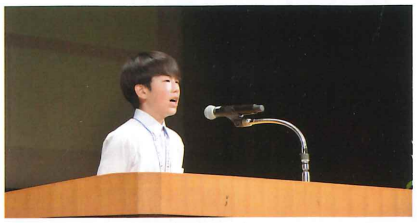
若い季節

NO.87
令和5年11月発行

〒520-0044 大津市京町四丁目3番28号　滋賀県厚生会館・滋賀県子ども・青少年局分室内
未来にはばたく青少年の健全育成をすすめる民間団体　滋賀県青少年育成県民会議

中学生広場「私の思い2023」

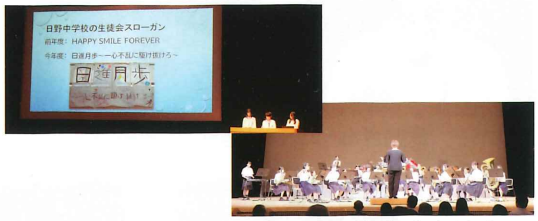

開会あいさつ

発表者と中学生実行委員

表彰式

受付

大杉副知事と語ろう会



日野中学校生徒会の取組紹介･吹奏楽部演奏

「滋賀県民総あいさつ運動」顕彰者表彰

滋賀県民総あいさつ運動顕彰者取組事例発表

松岡　静司　氏

勝城　弘志　氏

青少年育成団体関係者等交流研修会

講演
「今どきの若者（青少年）たちのもつ傾向とその支援について」
滋賀県スクールソーシャルワーカー同事業スーパーバイザー
鈴木　秀一　氏

非行防止・環境浄化対策連絡会議

講話
県警本部生活安全部
少年課長　米森 昌一 氏

講演
滋賀県保護司会連合会
事務局長　堀池 修造 氏

講演
県教育委員会生徒指導・いじめ対策支援室
主幹　北村 武司 氏

主な内容

●滋賀県第26回中学生広場「私の思い2023」……2
●中学生広場　最優秀賞、優秀賞の発表意見文……3
●「あいさつ運動感謝状」受賞者一覧……6
●市から町から（高島市・野洲市）……7
●青少年育成団体関係者交流研修会、非行防止・環境浄化対策連絡会議……8
●滋賀県青少年育成市町民会議一覧……9
●正会員（団体）紹介、滋賀県青少年育成県民会議入会のお願い……10

8月19日（土）に、滋賀県第26回中学生広場「私の思い2023」県広場を開催しました。今年度の県広場には大杉副知事にも来賓としてご出席いただきました。今年度は、県内99校、24,490人の中学生から意見作文の応募があり、その中から選ばれた代表の12名の皆さんの意見発表とともに、日野町の中学生実行委員の皆さんを中心とした運営がなされ、進行や案内など様々な場面で、中学生の活躍する様子が見られました。

また、活動発表では日野中学校生徒会から「あいさつ運動」「環境整備」「地域とのつながり」の3つのことを大切にして、さらに良い学校にしていけるようにと活動している様子が紹介されました。また、日野中学校吹奏楽部の爽やかで美しい演奏が披露されました。ダンスなどの楽しいパフォーマンスもあり、会場が和やかな雰囲気に包まれました。意見発表の審査結果は、下表のとおりです。

意見発表者と授与者の皆さん

山中　萌衣さん

池田　真綾さん

東　さおりさん

木谷　莉緒さん

野口　晴歌さん

藤木　彩季さん

中西　莉子さん

井上　華風さん

梅澤　桜子さん

山本　湊太さん

野洌　咲太朗さん

岩本　諒真さん

審査結果

（敬称略・優良賞は県広場の発表順）

賞	学校名	学年	発表者	題　　名
最優秀賞	立命館守山中学校	2年	山中　萌衣	小さな幸せは大きな幸せ
優秀賞	長浜市立びわ中学校	3年	池田　真綾	「こころ」を受け取る
優秀賞	野洲市立野洲北中学校	1年	東　さおり	私が大切にしたいこと
優良賞	米原市立双葉中学校	3年	木谷　莉緒	たくさんの視点をもって
優良賞	栗東市立栗東中学校	3年	野口　晴歌	見えても、見えなくても
優良賞	近江八幡市立八幡中学校	2年	藤木　彩季	私ができる、ハウスワーク
優良賞	多賀町立多賀中学校	3年	中西　莉子	深夜の水槽
優良賞	東近江市立朝桜中学校	3年	井上　華風	優しい思い出
優良賞	高島市立湖西中学校	3年	梅澤　桜子	私の進むべき道とは
優良賞	栗東市立葉山中学校	3年	山本　湊太	私を変えたもの
優良賞	長浜市立高月中学校	3年	野洌　咲太朗	「正義のヒーローアンパンマン」
優良賞	大津市立瀬田中学校	2年	岩本　諒真	好きから始まった私の考え方

★最優秀賞は滋賀県知事賞、優秀賞は滋賀県議会議長賞および滋賀県教育委員会教育長賞、優良賞は県民会議会長賞

最優秀賞（知事賞）

小さな幸せは大きな幸せ

立命館守山中学校　2年　山　中　萌　衣

「やっとの思いで手に入れた水は、命と未来を奪う水」ある日、私はユニセフのホームページで、この言葉を目にしました。「水が命と未来を奪う？どういうことだろう。」と、とても不思議に感じました。なぜなら、水は生きる上で必要なものであり、命や未来を奪うものという言葉に納得がいかなかったからです。そこでもう少し調べていくと、私の想像を絶するような1本のCMを見つけました。それは、13歳の女の子「アイシャちゃん」の1日のルーティーンを紹介するものでした。彼女の1日は私の1日とは全く違いました。私は朝起きて、学校へ行き、家に帰り、お風呂に入り、夜ご飯を食べ、勉強をして、歯磨きをして、寝るという毎日を送っています。一方、彼女の1日は水汲みで始まり、水汲みで終わるというものでした。水汲みに費やす時間は、なんと1日の中の8時間。しかも、水汲み場にやっと着いた時に映し出された水は、黄土色の「泥水」でした。私はギョッとしてしまいましたが、アイシャちゃんはとても爽やかで、気持ちよさそうな笑顔だったのです。8時間も費やした水汲みで彼女が手に入れた水は、家族一人につき5リットルにも満たない量でした。

透明で綺麗なおいしい水を、飲みたい時に飲みたいだけ飲んでいる自分。日本では蛇口を捻れば、きれいな水が手に入る。これがどれだけ恵まれているのかを実感しました。その時、私が初めに見た言葉の意味が分かりました。アイシャちゃんのような子供たちがやっと手に入れた水は泥水で、その中には生き物の糞も細菌も泥も含まれています。それを飲んでしまい、感染症になるのです。しかし、飲まないわけにはいきません。そのため、命を落とし、未来を失う子供たちが世界にはたくさんいるのです。

私は小学校の5年間をタイで過ごしました。タイは笑顔で優しい方の多い素敵な国です。しかし、とても貧富の差が激しい国でした。駅の近くにはボロボロになったシートを敷いて生活をしているお母さんと子供がいます。観光地へ行くと子供が私に向けておみやげを売ってきます。しかも、その子は裸足です。反対に、とてもお金持ちで、家にプールがついている、大きい家に住む人もいます。

私はインターネットや自分の経験から、世界には数々の「差」があると気づきました。アイシャちゃんの話からは、先進国と発展途上国での水の供給の「差」。タイでは貧富の「差」。他にも世界には食料の「差」、医療の「差」、所得の「差」などが存在します。

今、私には将来の夢があります。それは、「国境なき医師団」に入ることです。国境なき医師団は医療の行き届いていない地域に行って、診察をする医師のことです。元々お医者さんは私の小さい頃からの憧れの存在でした。私は人の笑顔を見たり、人の役に立つことが大好きです。父の仕事の関係で海外の方と関わる機会が増えていくにつれ、国と国の壁を感じなくなり、日本だけで終わらず、海外の方とたくさん交流したいと感じ、今の夢にたどり着きました。世界中で苦しんでいる私と同じくらいの子の命を自分の力で救い、笑顔にしたい、未来を与えたい、そして、何より医療の「差」を無くしたいと思います。

「やっとの思いで手に入れた水は、命と未来を奪う水」。この言葉はずっと水を口にする度に私の心に響きます。今「自分が幸せだからいい」で終わってはいけない。どこに住んでいても、国籍がたとえ違っても、この世界に住んでいる人はみんな同じ人間です。今存在している「差」を私たちが動いて縮めていくことが、現在求められていることなのです。だからみなさん、いきなり大きなことはできなくても、まずは身近な幸せに感謝し、大切にすることから始めてみませんか？

優秀賞（議長賞）

「こころ」を受け取る

長浜市立びわ中学校　3年　池　田　真　綾

「HOPE AOHARU 通信～ 29 人で最高の青春を～」中学２年生の体育祭の練習が始まり、しばらくしてこんなタイトルの通信を発行し、教室の後ろに掲示することになりました。

全員リレーにダンス、中でも大縄跳びは初挑戦でした。リーダーが立候補で決まり、練習計画を立てたり、並び方や声の掛け方を考えたりと順調でした。コロナ禍で昨年はできなかった種目だけに皆意欲的でしたが、私は少し不安でした。実際、全員で息を合わせて跳ぶことは難しく、炎天下の取り組みで明らかに集中できない人もいました。案の定不安は現実となりました。「練習期間は限られている。このままでは良くない。」学級委員だった私は、思いつきで通信を発行することにしました。「HOPE AOHARU 通信」です。各リーダーが練習で気づいた課題や成果を掲載しようと思ったのです。通信第1号、その内容は課題ばかりでした。「恥ずかしくて声を出さない人がいる。」「引っかかった人を責める人がいた。」改善点には違いありませんが、これでは皆やる気をなくしてしまうのではと思いました。何より私自身、皆の力になれず自然と暗い気持ちになり、家に帰ってもそのことで頭はいっぱいでした。それでも通信を書き続けたのは、そんな私の気持ちに気づいてくれた友だちの一言があったからです。「1 人で背負わなくていいよ。」の言葉が温かかったからです。通信は相変わらず課題が中心でしたが、徐々にそれを読む人は増えていました。「皆、同じ気持ちでいる。このことを通信で伝えたい。」そう思いました。ただ、記録は課題をクリアしないと伸びません。友だちに協力してもらって記事を集めたり、先生にアドバイスをいただいたりしました。そして、あるときから練習に変化が見られるようになりました。回し手は全身を使って頑張ってくれ、リーダーの指示も具体的なものになりました。失敗を責める声も減り、同時に少しずつですが記録は伸びていったのです。9回、10回……。練習の成果に１つになった皆のこころが表れているかのようでした。

しかし、本番前日の練習、その日はなぜか昨日のように跳べませんでした。明日に本番を控え、私は１人焦っていました。でも、皆は違いました。今までたくさん練習をしてきた自信からか明るかったし、楽しそうでした。そんな雰囲気を感じ取って私は、「最終号は全員の言葉で埋め尽くそう。」そう決めました。「団結力を試すとき。」「今までの１番を超えろ。」短い言葉に一人ひとりのこころが込められていました。私たちの学級はこんな気持ちに支えられている、そう思うと、私も素直な気持ちを書きたいと思いました。「全員が笑って！思い出に残る体育祭へ！今の２組は最高で最強！」

体育祭当日は快晴。最終号を学級のテントにお守りのように貼り、全員で本番を迎えました。チャンスは１度。３分間で１番多く跳んだ回数が記録となります。「せーの。」スタートと同時に回し手の声が響き、皆がそれに続きます。「1・2・3……。」とにかく１回ずつに集中。「7・8……。」こころを１つにして。いつの間にか最高記録、26 回を超えていました。暑さも眩しい日差しも気になりません。先生の全力の応援も聞こえます。「29・30……」間もなく終わりの合図があり、記録は 32 回。記録更新。私たちの新記録。その瞬間、皆の歓声が快晴の空に沸き上がりました。飛び跳ねている人もいたし、観客席からは大きな拍手が届きました。「皆と一緒に希望を持ち続けて良かった……。」

29 人で最高の青春を味わった３分間でした。結果以上にこんなにも一生懸命な仲間たちと過ごす明日からの学校生活にわくわくしていました。

何かを伝えたくて始めた通信。気がつけば反対に皆の「こころ」に触れていました。気持ちを伝え合うことは難しいかもしれません。恥ずかしいときも辛いこともあります。それでも私は言葉を大切にして自分の思いを伝えていきたい、たくさんの「こころ」を受け取っていきたいと思います。

私が大切にしたいこと

優秀賞（教育長賞）

野洲市立野洲北中学校　1年　東　さおり

私の幼稚園の卒園式の日の夜、母が入院しました。慢性骨髄性白血病という病気でした。白血病とは、血液のがんで、がん化した悪い白血球系細胞が無限に増殖する病気です。私はその病気の恐ろしさをまだ知らなかったのですが、ただ、母が入院するということが怖くて、私は玄関に座り込んで、泣きじゃくっていた事を今でもよく覚えています。

白血病を治すためには、健康な人に骨髄液を提供してもらい、悪くなった骨髄液を入れ替える「骨髄移植」をしなければなりません。しかし、その治療はとても痛くてつらいものです。しかも、骨髄移植をするためには、白血球抗原の型が一致する必要があり、適合する確率は、一番合うと言われているきょうだいでも4分の1程度しかありません。幸い、母の兄と適合し、骨髄移植は無事成功しました。

ところが、骨髄移植後に出た多くの後遺症が母を苦しめました。脳の萎縮や極度の冷えと痺れ、白内障、さらに、それまでの生活が一変してしまったのは、脚の筋力がいちじるしく低下してしまった事でした。脚が思うように動かず、自力ではうまく歩けないので、普段は杖を使うようになりました。階段を上り下りするときは、手すりに掴まり、買い物をするときは、カートを頼りにゆっくり歩きます。家族が近くにいる場合は、私達が手を引いて歩くようにしています。誰かが困っているのなら、誰かが手を差し伸べる。そんな事は当たり前だと私は思っていました。しかし、5年生になったある日、母と手を繋いで外を歩くという事に恥ずかしさを覚えました。私は忘れていました。一人で歩けなくて一番辛い思いをしていたのは、私でも父でも姉でもなく、母だという事を。

そんな思いの中で過ごしていたある日、母と一緒にスーパーへ買い物に行きました。私たちがエレベーターに乗っていると、40代位の女性が脚の悪そうな高齢者の方の手を引いて乗ってきました。そのときは、足が悪いのかな、くらいにしか思いませんでしたが、その2人が降りた後、ふと自分も同じ立場なのだと気づきました。そして、急に他人の目を気にして恥ずかしいと思っていた自分が恥ずかしくなりました。あの女性は素晴らしい行動をとっていると、私は素直に感じました。それならば、私の行動も自分自身で素晴らしいと認めても良いのではないかと思いました。気づいたら涙が一筋流れていました。自分の情けなさに気づいたからなのか、恥ずかしいなんて思っていなかった頃の自分を思い出したからなのか、何の涙だったのかは今までもよく分かりません。

私が今、母の手をとって歩くことが恥ずかしくないかと言えば、正直そうではないと思います。でも、私の行動が誰かのためになるのなら、誰かのために私のできる事をすれば良いと思えるようになりました。

私はこれから、様々な人と出会い、楽しい事や嬉しい事、またつらい事や苦しい事、恥ずかしい事など、多くの経験をすると思います。そして、自分自身が見聞きし、学んだ事を、これからの人生に生かし、みんなと支え合う輪の中に自分もいて、そんな社会をみんなでつくっていけたらいいなと思います。母にはもちろん、エレベーターで出会ったあの2人にも届いてほしいと思います。未熟な私を成長させてくれてありがとう。

滋賀県民総あいさつ運動感謝状受賞者一覧（敬称略・順不同）

令和5年度総会（5月19日）の席上、長年にわたりあいさつ運動に取り組んでおられる下記の11名と5団体の皆様に滋賀県青少年育成県民会議兒玉会長から感謝状を授与させていただきました。

顕彰者（団体）名	活　動　内　容	顕彰者（団体）名	活　動　内　容
小野学区青少年育成学区民会議（大津市）	小野学区青少年育成学区民会議は、平成18年7月に設立され、現在まで16年間にわたり啓発活動、学区内巡回パトロール等青少年の健全育成活動を行っている。なかでも、あいさつ運動は、毎月2回定期的に行われており、年間の活動として定着している。長年、活動されてきた功績は誠に大である。	鵜飼　隆雄（栗東市）	平成17年に「治田子ども見守り隊」を結成されてから16年もの長きにわたり、登下校時に通学路の主要ポイントに立ち、子どもたちに親しみを込めた声掛けをしていただいている。子どもたちもしっかり「あいさつ」が出来る良い習慣が身についており、地域の子どもたちの育成に大きく貢献していただいている。
竹本　義之（長浜市）	民生児童委員、ラジオ体操指導、スクールガードとして、地域の児童へのあいさつを続けられるとともに、交通安全などの見守り活動にも力を注がれてきた。現在も日常的に地域の子どもたちにあいさつの声掛けを続け、見守りを自主的に励行されており、通算21年間地域の児童へのあいさつを続けてくださっている。	（故）澤田　浅郎（野洲市）	子ども安全リーダー兼スクールガードとして18年間にわたり、児童たちの通学路において、毎日、見守り活動及びあいさつ運動を続けてこられた。児童にあいさつや礼儀の大切さ、事件・事故から身を守る方法などを熱心に指導されるなど、長年にわたり日々子どもたちの安全確保とあいさつ運動に尽力された。
長浜幼稚園子ども安全リーダー（長浜市）	長年にわたり、毎日、早朝より、天候にかかわらず、市街地の大きな交差点に、また、登園時間には、園近くの危険な交差点に立哨し、園児や小中学校・高等学校の生徒だけでなく、通勤の方々にも親しみのあるあいさつを交わしてくださる。日々、継続していてくださることで、園児も大きな声であいさつをするようになった。	中主学区青少年育成会議（野洲市）	中里学区と兵主学区を統合し平成28年に設立され、「地域の子どもは地域で守り育てよう」を活動基盤に捉え、中主小・中学校校門の「朝のあいさつ運動」、地域ぐるみの「愛の声かけ運動」や街頭補導などで子どもたちに元気を与えるとともに、子どもの健全育成と見守る活動を積極的に取り組んでいる。
松岡　静司（近江八幡市）	桐原東小学校・桐原小学校・八幡西中学校の校門前に立つなど、13年間の長きにわたり、朝のあいさつ運動を継続するとともに児童生徒たちに話しかけてこられた。また、地域と共にある学校の原動力として活動され、自治会長としても市民総あいさつ運動の先頭に立ってこられた。	小松　安希子（東近江市）	昭和43年、自治会の青少年委員を機に現在に至るまでの長きにわたり、小学校の校門をはじめ、通学路での「あいさつ運動」や「春休み愛のパトロール」を実施される中、子どもたち一人ひとりに「あいさつ」と「声かけ」を続け、子どもたちとのつながりを大切にしてこられた。その活動は他の模範とするところである。
西澤　文義（近江八幡市）	毎朝、欠かすことなく15年間の長きにわたり、登校する児童にあいさつをしてくださっている。また、車の通りが多い通学路をスクールガードとして毎朝、児童を見守り、学校まで安全に送り届けてくださっている。毎朝欠かすことなく、あいさつをしてくださっている姿は、地域の模範ともなっている。	橋村　新一（東近江町）	能登川西小学校区地域教育協議会の活動である「笑顔であいさつ『さわやかロード』」の会員として、平成26年から現在に至るまで毎日、子どもたちの登校時に合わせ通学路交差点であいさつ、声かけをされ、交通安全にも寄与されている。こうした地道な取組は、他の模範とするところである。
川邉　義信（近江八幡市）	八幡小学校・八幡中学校の児童・生徒を中心に、近江八幡市内の子どもたちの健全育成に尽力してこられた。特に、現在も八幡小学校の校門に毎日立って、5年間の長きにわたり、朝のあいさつ運動を継続するとともに児童たちに寄り添い、相談にのったり、励ましたりしてくださっている。	多賀小学校スクールガード（多賀町）	毎日集合場所に子どもたちよりも早く出向き、集まってきた子どもたちに声をかけるとともに、付き添い登校をしたり、バス通学の字についてはスクールバスの乗車の補助をしてくださっている。多賀町が力を入れている「あいさつ運動」の大きな牽引力となっているので、その功績は多大である。
角尾　勲（草津市）	平成25年4月より草津栗東交通安全協会笠縫東支部長、同時に「おうみ通学路交通アドバイザー」として、10年間にわたって自発的に学校の長期休業を除く平日の5日間、地域に立ち続け小中学生の見守りと声掛けを行って来られた。長きにわたり継続して地域に貢献してこられた功績は大きい。	大滝小学校スクールガード（多賀町）	毎日集合場所に子どもたちよりも早く出向き、集まってきた子どもたちに声をかけるとともに、付き添い登校をしたり、バス通学の字についてはスクールバスの乗車の補助をしてくださっている。多賀町が力を入れている「あいさつ運動」の大きな牽引力となっているので、その功績は多大である。
寺町　卓（守山市）	平成30年4月より、児童の健全育成のため毎朝、登校班に付き添い、「おはようございます」と元気にあいさつを交わしながら、児童の安全に配慮して学校までの道のりを一緒に登校されている。温厚な人柄と相まって地域住民や保護者からも人望が厚く、青少年の健全育成に貢献されている。		
平岩　省吾（栗東市）	平成17年に「治田子ども見守り隊」を結成されてから16年もの長きにわたり、登下校時に通学路の主要ポイントに立ち、子どもたちに親しみを込めた声掛けをしていただいている。子どもたちもしっかり「あいさつ」が出来る良い習慣が身についており、地域の子どもたちの育成に大きく貢献していただいている。		

市から町から

体験活動を通じて成長する子どもたち

高島市青少年育成市民会議

○よえもん道場15年のあゆみ

高島市では、地元の江戸時代初期の陽明学者「中江藤樹」の通称にちなみ、「よえもん道場」という体験活動をメインにした小学4～6年生向けの通年行事を行っています。地域の自然や歴史について知り、愛着を持ってもらうとともに、市内各校の児童が集まり、宿泊事業などの中でリーダーシップや仲間作りなどの集団生活の力を養っていくことを目的としています。

「よえもん道場」は、平成21年度から実施しており、新型コロナウイルスの影響で予定の一部が変更や中止になったり、応募者が少なくなったりと苦しい時期もありましたが、学校や地域の方々、過去の参加者など多くの人に支えていただき、無事に15周年を迎えることができました。これからは活動自粛によりできていなかった様々な体験をより多くの子どもたちにしてもらえるよう頑張っていきたいと考えています。

○体験活動の大切さ

近年では、スマホやパソコンなど電子機器の普及に伴い、子どもたちは外で遊ぶよりも家の中でゲームなどをして過ごすことが年々増えてきているように感じます。社会情勢なども相まって、家族でキャンプに行ったり、自治会や子ども会などの団体で子どもたちと自然体験をしたりすることなども少なくなったのではないでしょうか。「よえもん道場」では、地域のことをまち歩きをしながらの学習、山での自然観察や川での投網体験、料理体験など様々な体験活動をしてきました。子どもたちが色々な体験の中で仲間とともに実体験としてたくさんのことを学び、感じ、成長してくれているのを毎年実感しています。

○次世代のリーダーとして

時代背景もあり、人と人との距離が以前よりも遠くなったように感じますが、社会や地域で生きていくためには、人と人とのつながりが大切であるということは変わりません。「よえもん道場」に参加した子どもたちが、経験を活かして、学校や地域で次世代のリーダーとなってくれることを願っています。高島市青少年育成市民会議は、引き続き様々な体験を通じて子どもたちの成長を促しながら、学校や地域とともに、子どもたちを温かく見守り、育てていきたいと考えています。

子どもとの絆やつながりを深め、安心安全な環境づくりに取り組もう

野洲市青少年育成市民会議

各学区育成会議、関係団体・機関等との連携・協力をより一層深め、各事業を効果的に展開するとともに、地域の青少年育成運動の輪を広げ、実践活動の充実に向けて取り組んでいます。今年度の主な活動を紹介します。

◆まちぐるみで愛の声かけ運動

7月3日（月）7:30～9:00頃、11月1日（水）7:30～9:00頃

市内全域の通学路で子どもたちに声をかけたり、安全確認をしたりしています。7月3日は1051名の市民が参加しました。

◆はつらつ野洲っ子中学生広場「私の思い2023」

7月8日(土)さざなみホールにて実施。市内3中学から9人が意見発表しました。運営も中学生6名が行いました。約150名の参加がありました。

◆はつらつ野洲っ子育成フォーラム

12月2日(土)さざなみホールにて実施。中学生3名、小学生3名、PTA代表、校長代表がパネルディスカッション形式で意見交換をします。コーディネーターは教頭代表。青少年の活動発表は「少年少女合唱団　星の子」です。

◆市民会議表彰および研修会

2月10日（土）今年度は「ヤングケアラー」について講演いただき学びます。

◆初発型非行防止活動

愛のパトロール(毎月第1・3金曜)、夏休み・冬休み等は広報車による啓発活動。各学区育成会議でも補導（委）員が中心に街頭補導を行っています。

◆広報紙の発行　年3回発行し、市内全戸に配布しています。

◆環境浄化に関する取組　主に白ポストによる環境浄化の取組を行っています。

青少年育成団体関係者交流研修会

令和5年度滋賀県青少年育成団体関係者交流研修会を5月19日（金）の午後に、滋賀県庁新館7階において開催しました。この研修会は、青少年育成市町民会議および関係機関・団体等の役職員が一堂に会して講演、事例発表や情報交換を通して地域活動の一層の推進を図ろうとするものです。

今年も、「滋賀県民総あいさつ運動」を最重点課題として取り組んでいます。その事例発表と青少年育成に関わる私たちにとって、これからの次代を担う青少年を育成する上で心がけなくてはいけないことについて研修会が開催されました。

あいさつ運動顕彰者による事例発表

【事例発表①】

「あいさつは心と心をつなぐ」　松岡　静司　氏　（近江八幡市）

【事例発表②】

「あいさつは手の平にのせて」　勝城　弘志　氏　（長浜幼稚園子ども安全リーダー）

講　演

『今どきの若者（青少年）たちのもつ傾向とその支援について』

滋賀県スクールソーシャルワーカー・同事業スーパーバイザー　鈴木　秀一　氏

新型コロナウイルス感染症は青少年の生活にも大きな影響を与え、これまでの対応では十分な支援ができない現状をふまえ、青少年に関わる大人としての立ち位置を見直す研修の機会をもちました。講師の鈴木氏からは、「原因ではなく要因、理由ではなく背景」「『普通』や『一般』を持ち込んだら、その子を見ていないことになる」「『どうしてできないの？』から『どうしたらできるの？』へ」など、支援のあり方についてのたくさんのヒントをいただきました。参加者からは、「新たな気づきがあり、意識改革につながった。」「若者の視点に立つ、人の多様性を深く知ることが大切だと痛感した。」などの感想が寄せられました。

「青少年の非行・被害防止滋賀県強調月間」推進事業
非行防止・環境浄化対策連絡会議

7月4日（火）に、滋賀県庁新館7階大会議室にて、令和5年度非行防止・環境浄化対策連絡会議を開催しました。本会議は、「青少年非行・被害防止滋賀県強調月間」推進事業の一環として実施しています。

●講話「県内の少年非行の現状について」

滋賀県警察本部生活安全部　少年課長　米森　昌一　氏

非行少年等の統計資料推移から、昭和63年をピークに7分の1まで減少しているが、令和3年から増加に転じ、令和4年は1割強の増加となっていることをご指摘いただきました。また特に、ＳＮＳに起因する事犯については、青少年健全育成条例違反、児童買春、児童ポルノの違反が大半を占める現状がある中で、「被害に遭わない」と「遭わせない」行動の重要性をお話しいただきました。

●講演「アンケートから見た保護司の思い」

滋賀県保護司会連合会　事務局長　堀池　修造　氏

「罪を犯した人や非行をした少年の立ち直りの支援」と「犯罪予防」を中心とした保護司の役割や活動内容、そして県内の全保護司を対象としたアンケート結果をもとに、実際に保護司が感じている不安や負担について、わかりやすくお教えいただきました。そして「息の長い支援事業」の必要性と、これからの「地域社会に貢献する更生保護活動」についてお話しいただきました。

●講演「生徒指導上の諸課題への対応について」

滋賀県教育委員会事務局幼小中教育課
生徒指導・いじめ対策支援室　主幹　北村　武司　氏

国や県の資料データにより、暴力行為、いじめ、不登校の現状・要因について、また「教育機会確保法」により学校に求められる基本的な考え方について、わかりやすくお話しいただきました。そして、「生徒指導提要」の改訂により、積極的な生徒指導を充実させ、「させる」から「支える」生徒指導への転換の重要性をお話しいただきました。